

令和4年度

事業報告書



南房総市社協マスコットキャラクター「みなみん」



社会福祉法人南房総市社会福祉協議会

目 次

〇はじめに	3
-------------	---

1 地域福祉の推進

(1) 地域福祉ネットワーク事業

① 地区社会福祉協議会の活動支援	3
② ささえあいネットワーク南房総(協議体と生活支援コーディネーター) の取り組み 5	

(2) 地域生活支援事業

③ 敬老事業	6
④ 福祉団体支援	7
⑤ 福祉施設の運営(公益事業)	7
⑥ 法律相談事業	7
⑦ 応急援護資金交付事業	8
⑧ ひとり親家庭支援事業	9

(3) 広報啓発事業

⑨ 広報啓発	9
⑩ 社会福祉大会	10

(4) 福祉活動支援事業

⑪ 福祉教育の推進	11
-----------------	----

2 高齢者の在宅生活の支援

(1) 在宅福祉支援事業

① ふれあいの居場所づくり支援事業	12
② ふれあいランチサービス事業	13
③ 紙おむつ給付事業	13
④ 交通空白地有償運送事業(ボランティア移送サービス)	14
⑤ 生活援助サービス事業(みなみん・おたすけサービス)	15
⑥ 福祉車両・福祉機器貸出事業	16
⑦ 福祉機器リサイクル事業	16
⑧ 訪問理髪サービス事業	17

3 安心した生活を送るための相談支援と権利擁護

(1) 相談支援事業

① 生活困窮者自立相談支援事業	17
② 日常生活自立支援事業	18
③ 安房地域権利擁護推進センターへの協力	19

4 自立と生活の安定を図る資金の貸付

(1)資金貸付事業

- ① 福祉資金貸付事業(市社協).....19
- ② 生活福祉資金、高齢者及び重度障害者居室等改築・改造資金
貸付事業(県社協).....19

5 ボランティア活動の支援

(1)ボランティア活動支援事業

- ① ボランティア連絡協議会の運営.....20
- ② ボランティア・市民センターの整備.....20
- ③ ボランティア養成講座.....21
- ④ ボランティア活動助成事業.....21

6 共同募金運動の推進

(1)共同募金事業

- ① 赤い羽根共同募金運動.....22
- ② 歳末たすけあい運動.....23
- ③ 災害義援金募集.....24

7 社会福祉協議会の活動基盤整備

- ① 事務局体制の充実.....25
- ② 会員募集の状況.....27
- ③ 役職員研修.....27
- ④ 福祉基金の造成.....27
- ⑤ 福祉サービス苦情解決と情報公開.....28
- ⑥ 地域福祉活動計画に基づく活動の実施.....28

令和4年度 社会福祉法人南房総市社会福祉協議会事業報告

〇はじめに

南房総市では、少子高齢化や人口減少とともに数年に及ぶコロナ禍において新たな課題も顕在化しており、今、支援を必要とする人は高齢者に限らず世代全体で増えている状況である。

特に、生活課題や福祉課題は、高齢者の孤立をはじめ、ヤングケアラーの問題、8050問題、減収や失業など多様化・複雑化しており、その課題を地域全体でささえあう取り組みの構築が求められている。

そこで、南房総市社会福祉協議会（以下「本会」）では、こうした課題に対応するため、社協の使命である「ともに生きる豊かな地域社会」づくりの実現に向けて、令和4年度の事業計画のもと、地域の「つながり」を大切に「ささえあい・たすけあい」の取り組みをこれまで以上に推進し、住民・専門職・関係者など分野を超えて連携・協働のもと各事業を実施した。

前半はコロナ感染状況が落ち着かないこともあり、昨年に引き続き、民生委員・児童委員やボランティア、また地区社会福祉協議会活動の協力による見守り訪問活動を進め、その後、感染状況が落ち着くと活動も徐々に再開されたことから、サロン活動や交流事業等の地域福祉活動が継続的に進められるよう支援に努めた。

また、コロナ禍において、事業や活動がこれまでと同じように実施できない状況や新たな生活課題に対応していく必要があることから、各事業については終了を含めた見直しや内容の改善に努めた。事業を検討するにあたっては、民生委員・児童委員、ボランティア等と事業に関する意見交換を行い、多くの意見を反映し、今の地域課題に対応した「つながり」や「ささえあい」の強化を図る事業を展開することとした。

そして、令和4年4月に本会の「本所」を三芳農村環境改善センターに移転したことを受け、まずは活動基盤となる法人運営事業をしっかりと行い、福祉行政の要である保健福祉部と連携強化を図り、福祉サービスの向上を目指した。

以下令和4年度の活動状況を、報告する。

1 地域福祉の推進

(1) 地域福祉ネットワーク事業

① 地区社会福祉協議会の活動支援

【年間実績】 事業費：1,833,972 円

No	地区名	重点事業	事業実施による成果等
1	富浦	① 友愛訪問活動 ② 市営路線バス「お買い物便」乗車のサポート	① 民生委員・児童委員と協力し、高齢者宅へ訪問、見守り活動を実施し地域のつながりを強化した。 ② 市の施策である「お買い物便」の乗車を住民に紹介、同行しながら買い物外出を支援した。

2	富山	①富山地区フォーラム ②地区サロンの開催	①住民同士の交流を図り、介護予防や健康について周知啓発が図られた。 ②地区住民同士の交流を通し、閉じこもりを予防し孤独感の軽減が図られた。
3	三芳	①友愛訪問活動 ②いきいきサロン ③まごころ年賀はがき交流 ④委員研修	①高齢者世帯の生活支援と見守りの充実が図られた。 ②高齢者の閉じこもり予防が図られた。 ③小学生との交流を通じて、世代間交流が図られ、地域の絆が深まった。 ④地域の担い手となる委員同志が研修を通して交流し、地域活動への意識を高めた。
4	白浜	①高齢者のつどい ②二世世代交流会 ③家庭介護予防教室 ④友愛訪問	①ひとり暮らし高齢者の閉じこもり防止と介護予防につながった。 ②小学校と連携し、世代を超えた交流が図られた。 ③高齢化率が高い白浜地区で、元気に暮らすことができるよう周知、啓発が図られた。 ④訪問活動を行い、地域の見守り活動の充実が図られた。
5	千倉	①高齢者ふれあいの日 ②買い物バスツアー	①徒歩で行ける範囲で交流することで、地元の住民同士の交流が図られ、閉じこもり予防につながった。 ②「サロン」と協働し、買い物支援を行った。楽しみながら外出し閉じこもり予防と生活支援の一助となった。
6	丸山	①ふれあい小規模サロン ②友愛訪問事業 ③樹木剪定教室 ④学校や他団体の連携事業	①参加者同士の交流が図られるとともに参加者や委員も含め地域のつながりを構築することができた。 ②訪問活動を通して高齢者の健康状況の把握や見守り対象者を広げることができた。 ③地域で活躍している高齢者を講師に教室を開催し、生きがいづくりを推進した。 ④学校や他団体との連携を図り、地域のつながりを強化した。
7	和田	①友愛訪問活動	①民生委員・児童委員やボランティアと協力し、訪問活動を実施した。地域で見守りが必要な対象者の現状把握と、訪問を通して顔と顔がみえる関係づくりができた。 併せて訪問活動時に地域課題である「買い物」に関する聞き取り調査を実施した。今後意見を集約し活動へつなげていく。

地区社協では生活支援コーディネーターが地域活動に積極的に関わり、活動を支援した。

地区社協の重点事業では、各地区地域課題へ向けた取り組みが進められた。移動や買い物へ

の地域課題の取り組みでは、バスでの外出に買い物支援を取り入れたり、また行政の交通施策であるバス試乗の協力など今までにない新たな取り組みが進められた。

また、コロナ禍ではあったが感染状況に配慮しつつ感染防止対策を行い、昨年実施できなかった交流会なども行われた。



買い物支援バスツアー



フォーラムで介護予防体操

②ささえあいネットワーク南房総(協議体と生活支援コーディネーター)の取り組み(市受託)

事業費:5,200,000 円

【年間実績】

No	協議体名	取組回数	協議体の内容と成果等
1	こらぼ♡富浦	15	○移動販売の普及による買い物支援 区長会、民生委員児童委員、地区社協等と協議し、富浦地区内移動販売を展開し、買い物支援をした。 地区内 11 カ所で移動販売を実施した。
2	アットホームとみやま	10	○地区内の買い物支援店舗リストの作成 食料品・日用品の配達可能な商店について調査し、「富山地区買い物支援リスト」を作成した。 今後、世帯やサロン等へ配布する予定。
3	よりどころみよし	16	○見守り活動の推進と移動支援、救急医療情報カプセルの普及 地区で行われているサロンやラジオ体操の他見守り訪問活動の情報収集を行った。またサロン利用者を対象に「チョイソコ南房総」を紹介、利用のサポートを行った。救急医療情報カプセルは更新をサポートした。
4	やあばっしえ白浜	12	○高齢者の見守り活動の手引きの作成 「見守り」をテーマに協議を進め、日常生活の中でご近所同志さりげなく見守る「気づき」を地域に広めるため、見守り活動にかかわるポイントをまとめた手引きを作成した。 白浜地区に全戸配布を予定。
5	ほっとらいふ千倉	12	○サロン活動を通じた見守り活動の推進 地域の見守りの拠点となる各地区のサロン開催状況を確認し情報共有を図った。 今後、見守り活動をすすめていくため、地区の区長や役員との連携を図っていく。

6	おたがいさま ネットワーク まるやま	10	○地域の移動や買い物支援について 買い物支援を実施していく上でのアンケート調査を実施した。 今後はアンケート結果を検証し、丸山地区でどのような支援 ができるか検討していく。地域ネットワークや地域のささえあいの 取り組みを紹介する広報紙を作成した。
7	ふれあいわだ	9	○買い物支援について 買い物先、移動販売、宅配サービスの情報を収集し、一覧に まとめ整理した。聞き取り調査の結果から、移動販売の導入 について検討していくこととなった。また、和田地区内で弁当 を届けてくれるリストの作成を進めた。
8	ささえあい ネットワーク 南房総(本所)	15	○各地区生活支援コーディネーター、地域包括支援センター及 び南房総市健康支援課との情報共有会議開催 地域全体でささえあいたすけあい活動の普及 移動、見守り、居場所づくりの推進 第1層協議体との連携

市内7地区に配置した「ささえあいネットワーク南房総」(協議体)を開催し、生活支援コーディネーターが中心となり住民の方々と地域の福祉課題を協議し、課題を解決するための取り組みを進めた。

主に「買い物支援」や「見守り」の課題に取り組む地区が多かった。買い物支援では、民間の業者と連携し移動販売を行うなど具体的な取り組みが進められ、また地域の見守り活動では様々な方法での見守り活動を進めることで、地域住民同士の顔と顔が見える関係づくりにつながった。



移動販売の取り組み



地域の見守りについて協議する様子

(2) 地域生活支援事業

③ 敬老事業

結婚 50 周年祝賀事業 事業費: 603,242 円

(対象: 昭和 47 年 9 月 1 日～昭和 48 年 8 月 31 日の間に結婚され市内にお住まいのご夫婦)

【年間実績】

開催日	内 容	希望対象ご夫婦
10 月	・記念品贈呈(記念写真・夫婦茶碗)	60 組

結婚 50 周年を迎えたご夫婦に敬意と祝意を表し、対象世帯 60 組に記念品を贈呈した。
本事業は、令和 4 年度をもって終了する。

④福祉団体支援

【年間実績】

福祉団体名	会議(市/支部)	研修会(市/支部)	事業(市/支部)
南房総市民生児童委員協議会	6 回/99 回	6 回/10 回	2 回/4 回
南房総市老人クラブ連合会	11 回/62 回	1 回/2 回	9 回/43 回
南房総市遺族会	5 回/18 回	0 回/0 回	0 回/2 回
南房総市ひとり親福祉会	0 回	0 回	1 回
南房総市心身障害者(児)福祉会	5 回	2 回	2 回

市福祉団体(5)、各支部福祉団体(21)の事務局として事務支援及び連絡調整を行い、各団体の自主運営が図られるよう支援に努めた。

昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染拡大防止に努め、団体支援を行った。

⑤福祉施設の運営(公益事業) 事業費:6,416,165 円

【ちくら介護予防センターゆらり延べ利用実績】

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	前年比較
利用者数	2,172人	3,091人	3,834人	743人
施設利用件数	489回	564回	511回	△53回

ちくら介護予防センターゆらり(浴場等)の指定管理を受け、施設利用者へのサービスの充実を図った。浴場は、予約制による人数制限を設け実施した。

ちくら介護予防センターゆらりは、災害時に避難所にもなるため、施設の老朽化に伴う館内のメンテナンスや修繕を実施し、施設管理の整備に努めた。

⑥法律相談事業 事業費:132,200 円

【開設実績】

内 容 (延べ数)	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	前年比較
開設日数	2 日	7 日	12 日	5
相談員数	2 人	7 人	8 人	1
相談件数	11 件	39 件	60 件	21

【内容別件数】

	内 容	件 数
1	不動産(土地・境界・家屋・墓地・その他所有物)	13
2	相続(遺言・遺産等)	28
3	金銭(借金・貸した金額の請求・家賃滞納・カード関係)	5
4	離婚・再婚	2
5	家族・親族	1

6	法律・規約・規則等各種	2
7	事故・事件・犯罪・被害届等	1
8	労働・職場関係	1
9	成年後見制度関係	1
10	財産関係	1
11	各種登記関係	2
12	その他	3
合 計		60

【開催場所】

開催月日	開催場所	担当司法書士相談員
4月21日	和田地域福祉センターやすらぎ・他	酒井敏行・堀川 貢
5月19日	富山岩井コミュニティセンター	堀川 貢
6月16日	丸山公民館	小林裕明
7月21日	とみうら元気倶楽部	江澤正志
8月18日	千倉介護予防センターゆらり	庄司 圭
9月15日	三芳農村環境改善センター	佐野和生
10月20日	白浜コミュニティセンター	山崎勝弘
11月17日	富山岩井コミュニティセンター	鈴木健三
12月15日	和田地域福祉センターやすらぎ	酒井敏行
1月19日	とみうら元気倶楽部	堀川 貢
2月16日	千倉介護予防センターゆらり	小林裕明
3月16日	三芳農村環境改善センター	江澤正志

千葉司法書士会館山支部の協力のもと、法律の無料相談を実施した。身近な場所で問題を気軽に相談してもらうことにより、地域の方々が安心して暮らせるよう支援した。

今年度は、感染防止対策を行い予定通り開設することができた。また、緊急な相談やより専門的な相談を希望された方については、弁護士会や他の専門窓口の電話相談を案内した。

⑦応急援護資金交付事業(一部市補助) 事業費 550,000 円

【年間実績】

発生月	地 区	交付内容	見舞金額(円)
8月	和 田	火災 全焼	100,000
9月	丸 山	火災 全焼	100,000
1月	和 田	火災 全焼	100,000
1月	丸 山	火災 全焼	100,000
1月	丸 山	火災 半焼	50,000
1月	富 浦	火災 全焼	100,000
合 計 6 件			550,000

火災、風水害等で被災された世帯に見舞金を交付し、被災者の当面の経済的負担を軽減し、少しでも早い日常生活が送れるよう支援を行った。今年度の応急援護資金の見舞金は6件の火災であった。

⑨ひとり親家庭支援事業 事業費:91,830 円

【年間実績】

(単位:世帯)

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	前年比較
交付世帯数	3	2	2	—
新規交付世帯数(内)	1	1	1	—

※入居支度金 30,000 円 家賃助成金上限 10,000 円×12 か月 (年 6 回に分けて給付)

新たに民間アパート等に居住しようとするひとり親家庭等に対し、経済的負担を軽減し自立した生活が送れるよう、入居支度金及び家賃の一部を補助する助成金を交付した。

現状では、市の担当課からの紹介で申請に至っている。本市では、祖父母世帯と同居している世帯が多いため、利用世帯の増加にはつながっていないと思われるが、子育て支援の一環として引き続き、担当課と連携を図り支援していく。

(3)広報啓発事業

⑨広報啓発

(1)広報紙の発行 事業費:705,584 円

【年間実績】

広報紙「てんだあ」	発行部数
57 号発行(令和 4 年 7 月発行)	14, 950 部
58 号発行(令和 4 年 11 月発行)	14, 950 部
59 号発行(令和 5 年 3 月発行)	14, 950 部
年間発行部数	44, 850 部



広報紙「てんだあ」

広報活動として、広報紙「てんだあ」を 3 回発行した。また、社協ガイドブックを作成し、全戸及び福祉関係者へ配布した。住民からの問い合わせも増え、各種社協の事業の利用につながり、担い手となるボランティアが増員となった。

(2)ホームページの開設と更新 事業費:91, 960 円

南房総市社会福祉協議会 ホームページアドレス

URL: <http://www.shakyo-minamiboso.or.jp/>

ホームページには、社会福祉協議会の組織、事業等の紹介をはじめ、住民に必要な福祉情報を掲載した。また、SNS(ツイッターやフェイスブック)を開設し、リアルタイムで本会の事業予定や福祉情報を提供した。

⑩社会福祉大会 事業費:202,243 円

【開催実績】

開催日	令和4年11月26日(土)
場 所	三芳農村環境改善センター
参加人数	被表彰者 30 人 関係者及び職員 36 人 計 66 人
内 容	第 17 回 南房総市社会福祉大会 大会テーマ 「ふれあい ささえあい 困りごとに気づけるお互い様の地域づくり」 ○式典 福祉功労者の表彰等 - 千葉県社会福祉協議会長表彰の伝達 ・白浜東部保育園 園長 坂本光恵 ・富浦地区社会福祉協議会 - 千葉県社会福祉協議会長感謝状の伝達 ・声の広報つくし会 - 千葉県共同募金会長感謝状の伝達(7 地区) ・富山 合戸区 ・三芳 本織区 ・三芳 明石区 ・白浜 砂取区 ・千倉 大貫区 ・千倉 川戸区 ・丸山 岩糸区 ・丸山 沓見区 ・和田 中三原区 - 南房総市社会福祉協議会長表彰 【地域福祉活動功労者(12 名)】 ・岡崎政子・石井一保・前田慶子・浜尾美岐子・鈴木京子・小池志恵 ・日向法子・鈴木偉夫・松田恵子・石井洋子・木村和子・羽山光枝 【民生委員・児童委員活動功労者(9 名)】 ・上村とみ江・淵辺恵子・佐野妙子・田中いゆ子・藤井芳彦・渡邊千里 ・丸まり子・岩波美恵子・石井民子 - 南房総市社会福祉協議会長感謝状 【団体 3 団体】・株式会社水越 ・合同会社青木板金 ・舞花カラオケ愛好会 - 福祉作文優秀作品表彰状 【小学生の部】 最優秀賞 岩波学弥(富浦小 6 年) 優秀賞 渡辺琴美(富山小 5 年) 佐久間璃人(嶺南小 6 年) 優良賞 佐久間睦実(富山小 5 年) 川崎文愛(三芳小 4 年) 【中学生・高校生の部】 最優秀賞 小川ひかり(白浜中 1 年) 優秀賞 川名莉央(富浦中 2 年) 加藤和花(嶺南中 3 年) 優良賞 渡邊かんな(三芳中 3 年) 佐野美妃(千倉中 1 年) ○福祉作文の発表 ○来賓祝辞 ○大会宣言

地域住民の方々が一堂に会して、市の地域福祉について情報共有するとともに、多年にわたり社会福祉の発展に寄与された方々の功績を讃え表彰するため社会福祉大会を開催した。



第 17 回南房総市社会福祉大会



福祉作文の発表

(4)福祉活動支援事業

⑪福祉教育の推進

【福祉教育推進助成金交付校実績】 事業費：360,000 円

小学校名		中学校名		高校名
富浦小学校	富山小学校	富浦中学校	富山中学校	安房拓心 高校
三芳小学校	白浜小学校	三芳中学校	白浜中学校	
千倉小学校	嶺南小学校	千倉中学校	嶺南中学校	
6 校		6 校		1 校

講座名	開催日	内 容	参加者数
福祉教育 プログラム	8 月 28 日	福祉ボランティアスクール ・ステップ1 ボランティアについて学ぶ ・ステップ2 ボランティア活動体験 ・ステップ3 振り返り 上記内容で計画したが、新型コロナウイルス感染症 拡大のため、オンラインに変更したため、 参加者が 2 人となった。	市内中学生 2 人
	6 月 28 日	・富山中 3 年 高齢者疑似体験	256 人
	7 月 12 日	・嶺南小 6 年 手話体験	
	7 月 13 日	・富山小 5 年 高齢者疑似体験	
	9 月 12 日	・白浜小 4 年 高齢者疑似体験	
	12 月 22 日	・富浦中 3 年 車イス・手話体験	
	12 月 20 日 1 月 20 日 2 月 10 日	・富山中 1 年 ステップ 1 災害に関する基礎講座他 ステップ 2 避難所とは？ 他 ステップ 3 災害時にボランティア活動をして いる人の講話 ※グループワークは毎回実施	

小・中学校、高校の児童生徒に幼いころから思いやりのある優しい心を育ててもらうことを目的に、福祉教育を推進する学校へ助成金を交付するとともに、福祉教育プログラムを実施し福祉教育を推進した。

助成金交付では、特に「美化活動」や「交流事業」などに活用される学校が多かった。

また各学校へのアンケートを実施し、学校からの要望に応えられるよう福祉体験講座の内容の充実を図り福祉教育の推進を図った。

福祉体験講座はボランティアスクールと併せて福祉教育プログラムとして位置づけ事業を実施した。事前に学校の担当教諭と講座のねらいや目的について打合せを行い、ニーズに併せた内容の提供に努めた。また、新たな試みとして災害ボランティアについての連続講座を開催した。

夏休みを利用した福祉ボランティアスクールは、地区のボランティア活動に参加する体験型のボランティア講座を企画したが、残念ながら新型コロナウイルス感染症の拡大によりオンライン講座に切り替えた

ため参加者が欠席となり、2 人の参加者となった。今回の企画を次年度に実施してくため準備を進めていく。



高齢者疑似体験の様子



災害についての講座の様子

2 高齢者の在宅生活の支援

(1)在宅福祉支援事業

①ふれあいの居場所づくり支援事業（お達者サロン）（市補助） 事業費：224,420 円

【年間実績】

	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	前年度比較
サロン開催状況	25 ヶ所	24 ヶ所	22 ヶ所	△2
利用者数(人)	769	798	3,232	2,434
協力者数(人)	382	628	1,674	1,046

【助成金交付実績】 2 団体・・・21,000 円

身近な場所で交流することで閉じこもりを予防し、利用者相互の交流を通して生きがいを見だし、元気に過ごしていただき介護予防の促進を図ることを目的として、ボランティアが運営するお達者サロンに助成金を交付するとともにサロン運営を支援した。

感染状況が落ち着いてきたことを受け、サロンが定期的に開催され、参加者が大幅に増加した。サロンでは介護予防への取り組みの他、地区社協と連携し買い物外出や公共交通のデマンドタクシー「チョイソコ南房総」の乗車など、新たな取り組みが進められた。

また、助成金を交付した団体は 2 団体であった。



サロンで交流 閉じこもり予防



サロンで小物づくり

②ふれあいランチサービス事業 事業費:3,583,429 円

【地区別配布(食)数実績】 月平均配布数・・752 件 (令和 3 年度 793 件 比較 41 件減)

地区名	延べ配布数	協力ボランティア	
富 浦	449	調理 189 人	月平均 15 人
富 山	772	配食 1,591 人	月平均 130 人
三 芳	658		
白 浜	1,463		
千 倉	3,783		
丸 山	855		
和 田	1,051		
合 計	9,031		

毎月1回、ボランティア、地区社協、民生委員・児童委員等が一人暮らし高齢者(70歳以上)を訪問し、健康・生活状況の確認を行うとともに交流を通して在宅生活を支援した。

弁当の調理に関しては、6月にランチボランティアによる代表者会議を実施し、感染状況を確認しながら調理再開も可とし進めてきたが、調理を実施した地区は10月からで1地区のみであった。

本事業は、調理ボランティアの不在や調理室が使用できない地区もあり、市内同一のサービスが提供できない状況から、ボランティアや民生委員・児童委員と意見交換を実施し事業を検討した結果令和4年度をもって終了する。

令和5年度からは新たな事業として対象者を広げ、地域での見守りやささえあいを重点においた事業の展開を進めていくこととした。ボランティア、民生委員・児童委員、地区社協等へ事業を説明し協力を依頼した。

③紙おむつ給付事業

(1) 紙おむつ給付事業 事業費:2,266,337 円

【給付実績】

(単位:人数)

区 分	令和2年度	令和3年度	令和4年度	前年度比較
障害者手帳	176	171	167	△4
要介護3	152	181	176	△5
要介護4	165	148	135	△13
要介護5	103	71	56	△15
合 計	596	571	534	△37

要介護3・4・5、重度障害者、療育手帳、精神障害者保健手帳を所持し、在宅で日常生活のほとんどに介護を必要とされる方を対象に、年4回、1回あたり介護度3は2,500円相当、介護度4・5及び障害者は5,000円相当の紙おむつを支給し在宅介護を支援した。

今年度は利用者の利便性の向上を図るため、印鑑の廃止等要綱の見直しを行った。年々対象者が減少傾向にある。在宅介護が減少しているのか分析が必要と思われるが、申請された方が忘れず受け取りができるよう業者に連絡し対応に努めた。

(2) 高齢者介護用品支給事業(市受託) 事業費:2,929,636 円

【給付実績】

(3 月末給付実人数)

区 分	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	前年度比較
要介護4	27	34	35	1
要介護5	12	11	12	1
合 計	39	45	47	2

要介護 4・5 の在宅高齢者で市民税非課税世帯の方を対象に、年 4 回、1 回あたり 25,000 円相当の紙おむつ代を助成した。

申請者は昨年度より 2 件増加した。本事業は市からの受託であるため、担当課である高齢者支援課と調整を図り実施した。高齢者介護用品支給事業が対象にならなかった方は紙おむつ給付事業で支給できるよう申請の案内を行い、世帯の介護負担軽減を図った。

④交通空白地有償運送事業(ボランティア移送サービス)

事業費: 収入総額:2,554,206 円 支出総額 2,353,749 円 当期末残額: 4,675,853 円

【会員登録数・224 人】

(単位:人)

	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	前年度比較
利用会員数	154	136	155	19
協力会員数	84	69	69	—

【ボランティア移送サービス利用実績・1,729 人】

(単位:人)

内 容	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	前年度比較
延べ利用者数	1,493	1,331	1,729	398
延べ協力者数	388	346	440	94

【サービス内容】

(単位:件)

内 容	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	前年度比較
病 院	950	778	982	204
公共機関	139	155	184	29
買 い 物	382	380	541	161
そ の 他	23	18	22	4
合 計	1,494	1,331	1,729	398

【運転協力者講習会開催実績】

開催月日	内 容	参加者数
5 月 25 日	移送サービス運転協力者講習会	2 人
10 月 12 日	移送サービス運転協力者講習会	5 人
10 月 21 日	移送サービス運転協力者フォローアップ講習会	18 人

11月10日	移送サービス運転協力者フォローアップ講習会	17人
合 計		42人

高齢者・障害者等の移動困難者に対して、運転協力者（ボランティア）が通院や買い物等の送迎を行い、在宅生活を支援した。コロナ感染状況が落ち着いてきたことから、利用が増えている。

令和5年2月の公共交通運営協議会において、日中独居の方や免許返納者等の支援として、回数制限を設けた上で利用対象とすることが認められ、令和5年4月から運用を開始することとなった。

本市における地域課題解決の一助として、公共交通施策と協働のもと安全運転に努めながら事業を実施した。



運転協力者運転講習会



フォローアップ講習会

⑤生活援助サービス事業（みなみんおたすけサービス）

事業費：収入総額：56,643 円 支出総額：40,043 円 当期末残額：156,000 円

（1）みなみんおたすけサービス

【会員登録数・・・27人】

（単位：人数）

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	前年度比較
利用会員数	2	5	8	3
協力会員数	12	17	19	2

【サービス実績】

（単位：件数）

内 容	令和2年度	令和3年度	令和4年度	前年度比較
話し相手	0	0	0	—
衣類の洗濯	1	0	0	—
住居の清掃	9	5	15	10
買物代行	6	3	0	△3
食事の支度	0	0	0	—
その他	0	0	11	11
合 計	16	8	26	18

南房総市にお住まいの方々のささえあい活動を目的に、高齢者・障害者等に対して、協力者（サポーター）が日常の家事を手伝い在宅生活を支援するサービスに取り組んだ。

地域包括支援センター及びケアマネージャー連絡会へ周知を図り、若干ではあるが利用者や協力

者(サポーター)の登録が増え、利用実績も増加した。利用の内容は、住居の清掃に加え、その他としてゴミ出しの利用が多い。利用に関して急激な増加がみられないが、ささえあい、たすけあい活動として徐々に利用が増えてくよう、今後も周知を図り推進していく。

(2)生活支援(コロナ対応買い物代行)

【利用実績】

(単位:件数)

	令和3年度	令和4年度	前年度比較
相談	5	9	4
実利用数	4	9	5
延べ利用回数	4	9	5

「新型コロナウイルス感染症」と診断され、自宅療養等をしている方で、外出できない方に対して生活必需品の買い物を代行する生活支援を実施した。配達は、利用者の個人情報に配慮し、職員が行った。令和3年度に始めた事業だが、5件増加している。

⑥福祉車両・福祉機器貸出事業

(1)福祉車両の貸出 事業費:1,225,252円

【年間貸出実績】 ※運転手は利用される方が手配しガソリン代は実費負担。(単位:件数)

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	前年度比較
福祉車両貸出件数	842	738	937	199
うち移送サービス件数	658	513	669	156

車イス仕様車両を無料で貸出し、病院の送迎や外出等の在宅介護を支援した。また、事故が発生しないよう、福祉車両整備に努めた。

福祉車両の貸出件数は、コロナ感染状況が落ち着き増加した。

(2)福祉機器の貸出

【年間貸出実績】

(単位:件数)

福祉機器名	令和2年度	令和3年度	令和4年度	前年度比較
車イス	53	62	58	△4
その他	0	0	0	0
合計	53	62	58	△4

車イスを無料で貸出し、家族の介護負担を軽減することで在宅介護を支援した。

⑦福祉機器リサイクル事業 事業費:76,013円

【年間実績】

(単位:件)

福祉機器名	令和2年度		令和3年度		令和4年度	
	譲受数	譲渡数	譲受数	譲渡数	譲受数	譲渡数
車イス	17	3	8	11	3	9

歩行器 (シルバーカー)	4	2	0	2	4	2
杖	3	5	0	0	1	1
合計	24	10	8	13	8	12

各家庭で不要になった車イス・歩行器等を受け入れボランティアが整備し、必要とする方に提供することで資源の有効活用を図った。希望に沿わない場合もみられるが、地域住民の経済的介護負担の軽減を図ることができた。

昨今、SDGs の観点からも有効な事業と考えられるので、今後も担い手となるボランティアの確保に努めながら本事業を推進していく。



リサイクルボランティアによる車イスの修理

⑧訪問理髪サービス事業（新規） 事業費：47,906 円

【年間実績】

	令和 4 年度
申請者数(人)	9
利用者数(人)	7
延べ利用回数(回)	19
登録店舗数(軒)	20

移動が困難な高齢者や障がいのある方に対して、訪問による理髪サービスに係る費用の一部を助成し、経済的負担の軽減を図り在宅生活を支援した。

新規事業として周知活動を行い事業を進めたが、申請者が少なかった。また申請をされても利用していない方もいた。理由については住まいの近くに協力店がなかった点も課題ではないかと思われる。今後も周知活動と利便性の向上を図り、協力店を開拓し本事業を進めていく。

3 安心した生活を送るための相談支援と権利擁護

(1)相談支援事業

①生活困窮者自立支援事業(市受託) 事業費：15,625,803 円

【年間実績】

(単位:件数)

自立相談支援事業	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	前年度比較
新規相談件数	143	91	61	△30
プラン作成件数 (再プラン含む)	33	39	30	△9

終結件数	10	11	16	5
------	----	----	----	---

(単位:件数)

家計改善支援事業	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	前年度比較
新規相談件数	14	11	10	△1
プラン作成件数 (再プラン含む)	10	16	9	△7
終結件数	3	5	9	4

(単位:件数)

就労支援準備事業	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	前年度比較
新規相談件数	0	3	1	△2
プラン作成件数 (再プラン含む)	5	4	5	1
終結件数	1	0	2	2

生活に困窮している方やその世帯の相談を受付、個々のニーズに応じた自立支援計画を作成し、関係機関と連携調整を図りながら就労等各種支援を継続的に行い、自立に向け支援した。

新規相談件数は、新型コロナウイルス感染症拡大以前と同等の件数に戻っている。特例貸付の返済が令和 5 年 1 月から始まり相談件数が増加すると思われたが、ほぼ無かった。

相談の内容では、精神疾患や発達障害があり借金を抱え、就労に結びつかないといった複合的な課題を抱えている相談が多かった。そのため家計改善支援事業や就労準備支援事業と併せ、担当職員でケース会議を設け連携を図りながら支援に努めた。

またケースによっては、生活保護制度の利用や地域包括支援センター、ケアマネージャーや民生委員・児童委員との連携等も必要であることから、事業や制度の説明を行い連携の強化を図った。

②日常生活自立支援事業(県社協受託) 事業費:1,879,950 円

【年間実績】

(単位:人)

	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	前年度比較
新規相談数	16	23	24	1
新規契約数(移管含)	2	8	10	2
解約数	2	3	5	2
契約数(3月末)	13	18	23	5
現任支援員数	12	12	16	4

生活支援員・担当者研修会及び意見交換会……11 月 11 日実施 15 名参加

高齢者や障がいのある方が住み慣れた地域でその人らしく安心して過ごすために、生活支援員が日常生活における財産の管理や福祉サービスの利用援助をサポートした。

本事業を推進するため、南房総市ケアマネージャー連絡会において事業を紹介し説明し連携を図り取り組み支援に努めた。新規相談件数及び契約件数は増加している。また生活支援員の増員

に努めた。

財産管理を支援するという責任のある事業なので、通帳や資料などの管理、チェック体制を徹底し、生活支援員及び担当職員の研修を通して支援の向上を図った。

③安房権利擁護推進センターへの協力

成年後見制度についての相談や利用を希望する方へ安房権利擁護推進センターを紹介し、成年後見制度の利用促進を図った。

4 自立と生活の安定を図る資金の貸付

(1)資金貸付事業

①福祉資金貸付事業(市社協) 事業費:190,000 円

【福祉資金貸付実績】

(単位:円)

	件数	貸付額	償還額	償還未済額
令和4年度貸付	5	190,000	211,000	0
徴収不能金	0	0	0	0

生活保護申請者等の低所得者世帯や高齢者世帯、障害者世帯に生活資金を貸し付け、民生委員・児童委員と連携し自立更正及び生活の支援を行った。

貸付の内容は、全て生活保護費利用までのつなぎとしての貸付であった。償還は全て完了している。

②生活福祉資金、高齢者及び重度障害者居室等改築・改造資金貸付事業(県社協)

事業費:909,400 円

【生活福祉資金貸付実績】

通常の貸付相談件数・・・11 件

(単位:円)

	件数	貸付額	備考
緊急小口資金	10	844,000	
教育支援資金	1	1,533,000	

特例貸付相談件数・・・5 件

(単位:円)

	件数	貸付額	備考
緊急小口資金	2	400,000	令和4年9月30日受付終了
総合支援資金	3	1,500,000	〃
延長貸付	0	0	〃
再貸付	0	0	〃

【高齢者及び重度障害者居室等改築・改造資金貸付実績】

(単位:円)

	件数	貸付額	備考
貸付	0	0	

通常の生活福祉資金の貸付は 11 件で、新型コロナに関する特例貸付は 5 件であった。

新型コロナに関する特例貸付は 9 月で受付が終了となり、償還免除や償還猶予の相談が増えると思われ準備を進めたが、現状としては多く相談は来ていない。そのため、心配される世帯へはアウトリーチなどを行い、対象者の把握に努めた。

また、民生委員・児童委員の一斉改選が行われたため、担当職員が各地区の民生委員児童委員協議会の定例会に出席し、事業や制度の説明を行い連携強化に努めた。

5 ボランティア活動の支援

(1) ボランティア活動支援事業

事業費：1,326,863 円

① ボランティア連絡協議会の運営支援

【年間実績】

(単位：回)

運営支援内容	回数
運営会議・役員会	6
行事関係	5

ボランティア団体の活性化により、地域福祉の向上を図るため、ボランティア連絡協議会及び各地地区のボランティア活動の運営を支援した。

ボランティア連絡協議会では、今年度規模を縮小し 4 年ぶりとなる「ボランティアまつり」を開催しボランティア同士の親睦を深めた。



4 年ぶりのボランティアまつり



参加者も体験を楽しんで交流

② ボランティア・市民活動センターの整備

【年間実績】

内 容	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	前年度比較
ボランティア登録団体数	66 団体	61 団体	58 団体	△3
団体・個人登録者数(延べ)	1,057 人	923 人	857 人	△66
ボランティアコーディネーター	1 人	1 人	1 人	—

ボランティア活動を支援するため、ボランティア保険加入受付事務を行い、ボランティアの方々が安心して活動できる体制を整備した。また、ボランティアコーディネーターを配置し、積極的に地域の

会議や行事に参加して、連絡調整や活動支援を行った。新たな活動として、収集ボランティア活動をボランティアコーディネーターが中心となり普及活動を進め、活性化を図った。

登録団体の構成員の高齢化や、本会事業のふれあいランチサービス事業の終了に伴う、登録数の減少が今後の課題であり、楽しく地域活動に参加し生きがいをもって取り組めるようボランティア支援に努めていく。

③ボランティア養成講座

【年間開催実績】

講座名	開催日	内 容	参加者数
生活支援担い手 養成講座 (基礎講座)	3 月 24 日	・社協のささえあい活動について(社協) ・南房総市の高齢者の現状及び高齢者の特徴と対応 【講師】健康支援課基幹包括支援センター ・手助けするための心構え・緊急時の対応 【講師】ボランティアコーディネーター	新規 サポーター 5 人
災害ボランティア センタースタッフ 養成講座	8 月 23 日	【講師】(公財)SL 災害ボランティアネットワーク 天寺純香氏 他 【講義①】水害被害、逃げない遅れない ・マイタイムラインという考え方 ・いつ、何を(個人ワーク) 【講義②】災害時の要配慮者支援他 【講義③】災害ボランティアセンターとは	民生委員 地区社協 行政 15 人

ボランティア活動を始めたい方、またボランティア活動に関心を持つ方を対象に各種ボランティアの講座を開催した。(移送ボランティアやその他の養成は個々に実績を掲載している)



生活支援担い手養成講座



災害ボランティアスタッフ養成講座

④ボランティア活動助成事業

【助成金交付実績】

件 数	合 計	ボランティア団体(グループ)助成金内容
48 団体	843,000 円	市ボランティア連絡協議会 1 団体 28,000 円 支部助成 7 団体 79,000 円 助成団体 33 団体 736,000 円 (※5 団体返金分 計 111,102 円)

※助成金交付内容(基本金額)

市ボランティア連絡協議会 80,000 円 ボランティア連絡協議会各支部 30,000 円

会員 10 名未満 20,000 円 10 名以上 30 名未満 30,000 円 30 名以上 40,000 円

ボランティアセンターに登録している団体の活動の活性化を図るため、団体の運営資金の一部を助成した。行動制限の緩和等により徐々に活動は再開したが、助成金の基準額を使い切らず翌年度減額助成となる団体が多かった。

助成金手続きについては、ボランティア登録から助成金申請までのスケジュールを見直し、早期に助成金交付ができるよう改善を図った。今後は、ボランティア団体から「助成金手続きが煩雑である」という意見もあることから、様式の見直しを進めていく。

6 共同募金運動の推進

(1) 共同募金事業

全国一斉に行われる共同募金運動は 10 月 1 日から翌年 3 月 31 日まで実施され、区長を始め地域の方々のご協力をいただき活動が展開された。

① 赤い羽根共同募金運動

【募金実績】

(単位:円)

	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	前年度比較
戸別募金	5,604,424	6,072,511	5,957,885	△114,626
法人募金	3,000	3,000	3,000	—
学校募金	127,540	123,092	92,951	△30,141
職域募金	22,987	19,884	15,881	△4,003
イベント募金	800	0	0	—
個人募金	54,094	0	0	—
その他	77,721	69,026	139,506	70,480
合計	5,890,566	6,287,513	6,209,223	△78,290

区の役員をはじめ地域の皆様のご協力をいただき募金運動を実施した。世帯数の減少により募金金額は減少している。寄せられた募金は、社会福祉大会・結婚 50 周年祝賀事業・福祉機器リサイクル事業・災害ボランティアセンター運営資材整備事業・高齢者、障害者等の福祉車両の整備事業・紙おむつ給付事業・福祉作文コンクール・生活支援担い手養成講座・絵本贈呈事業・広報紙の発行など地域福祉を推進するために活用した。

★ 絵本贈呈事業 事業費:278,990 円

【絵本贈呈先実績】

保育所			幼稚園	
富浦保育所	富山保育所	三芳保育所	富浦幼稚園	富山幼稚園
千倉保育所	嶺南保育所	白鳩保育園	三芳幼稚園	白浜幼稚園
認定こども園こどもの森	白浜東部保育園		千倉幼稚園	嶺南幼稚園
8 園			6 園	



絵本贈呈事業



絵本贈呈事業

絵本に親しんでもらうことにより思いやりの心を育て、健やかな成長を願う健全育成を目的に、市内の保育園と幼稚園へ子ども達に向けた絵本を贈呈した。保育所や幼稚園からのアンケートの意見からは、保護者や子どもも共に人との関りが薄く、コロナ禍においてさらに地域交流の機会が減ってきており、スマホやゲーム等に頼っている状況が増えていることに危惧している声も多かった。そのような中で絵本による読み聞かせは福祉教育の推進にも寄与しており、継続して欲しいという声も多かった。なお、絵本贈呈時には、社協のマスコットキャラクター「みなみん」との交流を図り周知活動を行った。

②歳末たすけあい運動

【募金実績】

(単位:円)

	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	前年度比較
戸別募金	5,507,922	6,047,611	5,981,385	△66,226
街頭募金	0	64,181	44,807	△19,374
法人募金	10,000	20,000	40,000	20,000
職域募金	3,500	3,984	0	△3,984
イベント募金	0	13,041	0	△13,041
個人募金	45,000	22,000	10,000	△12,000
そ の 他	12	11	10	△1
合 計	5,566,434	6,170,828	6,076,202	△94,626

【歳末たすけあい配分実績】

(単位:件)

分世帯(者)	令和2年度	令和3年度	令和4年度	前年度比較
生活困難な支援世帯	33	34	29	△5
独居高齢者	192	201	188	△13
高齢者のみ世帯	18	21	22	1
寝たきり高齢者	9	14	13	△1
寝たきり障害者	9	13	12	△1
重度心身障害者(児)	127	122	111	△11
母子家庭	33	33	28	△5
父子家庭	3	2	2	—
児童養護施設	1	1	1	—
特別養護老人ホーム	7	7	7	—
老人保健施設	3	3	3	—
知的(精神)障害者施設	3	3	3	—
グループホーム	6	6	6	—
小規模多機能施設	3	3	3	—
小規模特別養護老人ホーム	1	1	1	—
グループホーム(障害者施設)	7	7	10	3
合 計	455	471	439	△32
	5,000,715 円	5,174,694 円	4,911,856 円	△262,838 円

12月1日から31日まで行われる運動では、赤い羽根募金同様、多くの皆様のご協力をいただいた。寄せられた募金は、スローガンである「あったかいお正月」を地域で迎えられよう、配分委員会を開催して配分方法を検討し、地域福祉事業に活用するとともに民生委員・児童委員を通じて市内の支援を必要としている方々や福祉施設へ見舞金を届けた。

また、市内中学校にご協力をいただき街頭募金を実施した。



学校募金の協力



街頭募金の実施

③災害義援金募集 義援金総額 20,000 円

全国各地で災害により被災された方々を支援することを目的に、災害義援金を募集した。

7 社会福祉協議会の活動基盤整備

①事務局体制の充実

理事会・評議員会の実施状況

理事会議案一覧 〈令和4年度〉

番号	会議回数	開催年月日	出席者数	日程	番 号			件 名	審議結果
					議案	報告	その他		
1	1	R4.5.26	理事 9名 監事 2名	1	1			令和3年度事業報告並びに決算の承認について	可決
2				2	2			評議員選任候補者の推薦について	可決
3				3	3			評議員選任・解任委員の選任について	可決
4				4	4			評議員会の開催について	可決
5				5		1		南房総市地域福祉活動計画の進行管理について	—
6	2	R4.9.27	理事 12名 監事 2名	1	5			福祉功労被表彰者の決定について	可決
7				2		2		事業（職務）の執行状況について ・令和4年度事業活動の執行状況について ・令和4年度月次決算等の状況について	—
8				3			1	第17回南房総市社会福祉大会の開催について	—
9	3	R5.1.17	理事 9名 監事 2名	1	6			職員の給与に関する規則の一部を改正する規則の制定について	可決
10				2	7			職員の再雇用に関する規則の一部を改正する規則の制定について	可決
11				3	8			令和4年度補正予算（第1号）について	可決
12				4	9			理事候補者の選定について	可決
13				5	10			評議員選任候補者の推薦について	可決
14				6	11			評議員選任・解任委員会の開催について	可決
15				7	12			評議員会の開催について	可決
16				8		3		職務の執行状況について ・令和4年度事業活動の執行状況について ・令和4年度月次決算等の状況について	—

17	4	R5. 3. 22	理事 11 名 監事 2 名	1	13			副会長の選定について	可決
18				2	14			職員の育児休業等に関する規則の一部を改正する規則の制定について	可決
19				3	15			令和 4 年度補正予算（第 2 号）について	可決
20				4	16			役員等賠償責任保険契約の締結について	可決
21				5	19			従たる事務所の廃止について	可決
22				6	17			令和 5 年度事業計画について	可決
23				7	18			令和 5 年度予算について	可決
24				8	20			評議員会の開催について	可決
25				9		4		職務の執行状況について ・令和 4 年度南房総市指導監査の結果について	—
26				10			2	令和 5 年度事務局体制について	—
27				10			3	理事（監事）の改選について	—

評議員会議案一覧 （令和 4 年度）

番号	会議 回数	開催 年月日	出席 者数	日 程	番 号			件 名	審議 結果
					議案	報告	その他		
1	1	R4. 6. 15	評議員 19 名 理事 1 名 監事 1 名	1	1			令和 3 年度事業報告並びに決算の承認について	可決
2				2	2			理事の選任について	可決
3				3		1		南房総市地域福祉活動計画の進行管理について	—
4	2	R5. 2. 3	評議員 19 名 理事 1 名	1	3			令和 4 年度補正予算（第 1 号）について	可決
5				2	4			理事の選任について	可決
6	3	R5. 3. 30	評議員 19 名 理事 1 名	1	5			令和 4 年度補正予算（第 2 号）について	可決
7				2	6			令和 5 年度事業計画について	可決
8				3	7			令和 5 年度予算について	可決
9				4			1	従たる事務所の廃止について	—
10				5			2	令和 5 年度事務局体制について	—

評議員選任・解任委員会議案一覧 〈令和４年度〉

番号	会議回数	開催年月日	出席者数	日程	番 号			件 名	審議結果
					議案	報告	その他		
1	1	R4.5.26	5名	1	1			評議員の選任について	可決
2	2	R5.1.26	5名	1	2			評議員の選任について	可決

令和４年４月に本所を三芳農村環境改善センターに移転し、まずは基盤となる事務協体制の整備に努め、ボランティア、福祉諸団体や関係機関と連携・協働のもと法人運営事業を進めた。

また社会福祉法人としての公益性・公共性を維持しながら、運営の透明性の確保とコンプライアンスの強化に努めるとともに、限られた職員で効率的に・効果的な福祉サービスを提供できるよう、関係機関と連携しながら各事業を進めた。

②会員募集の状況

(単位:件)

	令和２年度	令和３年度	令和４年度	前年度比較
一般会員 (市内全世帯)	269	12,311	12,289	△22
賛助会員 (活動に賛同される個人など)	42	417	455	38
特別・施設団体会員 (福祉施設・団体など)	29	116	131	15

会員募集では、世帯数の減少に伴い一般会員の減少があったが、特別会員加入について強化を図り、増となった。

③役職員研修

開催月日	内 容	参加者数
12月23日	社会福祉法人役員等研修会 「社会福祉法人制度改革 理事・監事・評議員の役割と責任 社会福祉法人のガバナンスの必要性」	理事・監事・評議員・職員等 7人

役職員研修の他、担当職員が各種研修に積極的に参加し、資質向上に努めた。

④福祉基金の造成

基金積立額

(単位:円)

基金の種類	積立額
福祉振興基金	96,827,586
災害対策基金	11,026,925
ボランティア基金	1,596,344
合 計	109,450,855

今年度も社協に寄せられた寄附を積み立て、その果実により社協活動の財源確保に努めた。

⑤福祉サービス苦情解決と情報公開

福祉サービス苦情解決とサービス向上のため、責任者、担当者及び第三者委員を配置し、体制を整備した。

⑥地域福祉活動計画に基づく活動の実施

今年度も地域福祉活動計画に基づく活動を実施した。また、年度末に地域福祉活動計画の進行管理表を作成し、各活動の評価を行い結果の把握・分析し考察した。引き続き、考察に基づき、計画の目標や見直しを図っていく。

令和4年度事業報告には、社会福祉法第45条の27第2項に規定する附属明細書については、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

令和5年5月

社会福祉法人南房総市社会福祉協議会

